

第四回齊藤ゼミ議事

2020/5/20(水)

担当：中村

1. 合宿のテーマについて

・案1：MaaS×地方・都市

高知大学は東京のこと、中央大学は地方のことについて考える。

高知とやるならば比較できるテーマがいいのではないか。

・案2：電子決済

年代別に考える。

身近なテーマで考えやすいのではないか。

2. Spatial.Chat でのミーティング

できる人とできない人がいた。次回できるように準備をする。

3. 朝イチ

・藤井：もしも、中銀発行デジタル通貨があったら

・助川：西友、離島にドローン配送

4. ゼミ新聞について

春合宿の新聞が完成。Facebook に掲載済み。

5. 企業研究発表

企業：バイデュ

担当：濱岡・鈴木政・飯島

(Spatial.Chat で実施しようとしたが、できない人がいたため Webex で実施。)

○日本進出

・理由

→共通してダブルバイト圏の言語であること、インターネットの浸透度が高いこと

・日本での知名度が低いことへの対策

→徹底的な現地化・優秀な人材

○事業

・検索エンジン世界4位

→広告売上で8割。Google と似ている。

→中国でのシェアが高いが、世界でのシェアは1%程度。ほとんどが google。

- ・ Simeji
→クラウド変換の安全性の問題が話題に。現在は ISO 基準を満たしている。
- ・ LisPon
- ・ Hao123 (ナビゲーションサイト)
- ・ popln 株式会社を子会社化 (日本の会社と共同)
→ネイティブ広告・RAED
→Poplen Aladdin : ホームプロジェクター市場 4 割を占める。

○今後の事業戦略

- ・ AI 分野
→自動運転プラットフォーム Apollo レベル 4・世界の 50 社と提携 (開発開始 2017 年)
- ・ モバイルファウンデーション

○強み

- ・ 中国国内で Google が使えないことで中国では生き残ることができるのではないか。国内だけでも 14 億という十分な情報が手に入る。
- ・ 新しいことに挑戦し発展していくのではないか。
- ・ AI 意味解析、音声認識が進んでいる。

○弱み

- ・ 新型コロナウイルスの影響で中国の信頼が落ちてしまっていることで、今後世界でバイデュを使う人が増えるかどうか。
- ・ 検閲がきびしいため自由にできない。
- ・ 世界の市場は 80 億であるから、中国のみとなると 14 億の市場にとどまってしまう。

○今後の考察

- ・ 検索エンジンの次を探す必要ではないか。=リスク分散
- ・ AI が次の柱になるのではないか。
- ・ 音声検索の発展 (スマートスピーカー)
→広告が出せないという問題点もある。